

別府市役所で行われた交通空白地有償運送運転者講習の様様

2025. 4. 21 (月) ~24 (木)

4月21日(月) 24人 初日は山本さん(全国移動ネット)が講義を行い、江口さん(佐賀)、柿久保さん(大阪)、橋本さん(山口)、横山さん(岡山)、中村(岡山)の6人で運転実技講習を行いました。



4月22日（火）は、受講者が14人で、柿久保さんと横山さんが講義をして、橋本さんと中村の4人で運転実技講習を行いました。



受講者の人に聞いたのですが、別府市長が50歳代の人で、別府市でライドシェアの運転手を100人養成するとして、広報等で募集をかけたのですが、当初はなかなか集まらなくて、色々な媒体を通して宣伝もして、市にラインの登録をしている人にも呼び掛けて、やっと30人くらい集まって、市の職員も30人くらい受講して、60人のドライバーを確保するというので、最終日の4月24日（木）は市長も受講するとのことでした。市長が受講することで、市の幹部職員も何人か受講することになったとのことでした。

別府市では、路線バスも休止する区間が出てきて、タクシーも夜はいなくなりました。自分も飲みに行っていて、帰りに駅前でタクシーをいつまで待っても来なかったので歩いて帰った。また代行もいつの間にか消えてしまった。とのことでした。全国でも有数の温泉地、観光地の別府市でさえもバスやタクシーはこのような状況のようです。

因みに、ライドシェアで一般の市民は自分の車（5人乗り以上）ですが、市役所の職員または自家用車が軽四等で5人乗り以上の車両を用意できない人は、先行して実証運送している巡回型コミュニティバスの車両（福祉車両定員6人+車いす1台）を使用するようです。

「湯けむりライドシェア」または「ライドシェア 別府」で検索したらいっぱい出てきます。

「市民の移動手段の確保を目的としたコミュニティバス「湯けむりライドシェア」の実証運行を開始します。」（別府市ホームページから）

※ルートや時刻表等の詳細については下記に添付のチラシをご確認ください。

実証運行期間

令和6年6月26日（水曜日）～令和7年6月末（予定）

平日8時～13時（1日10便）

電動リフト付き福祉車両（定員6名+車椅子1台）

- ※車椅子でのご利用の際の予約は必要ございません。バス停でお待ちください。
- ※車椅子ですでに1台乗車されている場合は、次の便をお待ちいただくこととなりますのでご了承ください。

運賃

1乗車200円（小学生以下無料）

福祉車両の導入は、地域の交通手段をさらに多様化し、全ての住民が平等に移動できる環境を整えるための重要なステップです。

地域住民への影響と期待

湯けむりライドシェアの導入は、地域住民にとって大きな影響を与えることが予想されます。特に、交通手段が限られている地域では、住民の生活の質が向上することが期待されています。

また、運転手不足の問題を解決することで、地域の経済活動も活性化する可能性があります。住民の移動がスムーズになることで、地域全体の活力が増すことが期待されます。

大分・別府市長が「ライドシェア」運転手に名乗り 温泉街 PR へ 4/23(水) 18:18 毎日新聞 配信



[訪日客向けの地域タクシードライバーに名乗りを上げた大分県別府市の長野恭紘市長＝大分県別府市上野口町で2025年4月23日午後2時18分、山口泰輝撮影](#)

温泉街で知られる大分県別府市の長野恭紘市長が、一般ドライバーが有償で訪日客を運ぶ地域タクシー「湯けむりライドシェア GLOBAL（グローバル）」のドライバーに名乗りを上げた。23日の定例会見で「1日1時間でもハンドルを握って、（別府の）ファンを増やすための貢献活動してみたい」と表明した。インバウンド需要が拡大する中、別府市では外国人観光客が利用するタクシーやバスが不足。市は対応策として、自治体などの管理下で一般ドライバーの有償運送を認める制度を利用して、「湯けむりライドシェア グローバル」と名付けたサービスを導入する。28日に実証運行が始まり、市は100人を目標にドライバーを募集。長野市長は「観光客の皆さんの意見を直接聞きたい。別府に来て、嫌な思いをする人を減らしていきたい」と意気込む。【山口泰輝】